

行事名 あおのリュウゼンラン見学

日時 7月22日(月)曇り

場所 東京・日比谷公園ない花壇(保守管理をトーマツが行っている)

リュウゼンランとはリュウゼツラン属(竜舌蘭)リュウゼツラン科の単子葉植物の分類群。学名 **Agave** はカール・フォン・リンネがギリシャ神話のアガウエーから名付けた。メキシコを中心に米国南西部と中南米の熱帯域に自生するほか、食用・繊維作物、あるいは観葉植物として広く栽培されている。和名に「蘭」とあるが、ラン科に近い植物ではない。リュウゼツランは、数十年に1度だけ花を咲かせることから「世紀の植物(センチュリープラント)」とも呼ばれます。開花時期が近づくと、放射状に広がる葉っぱの間から太い茎を伸ばします。・・・インターネットより

日比谷公園の近くに事務所を構えている「監査法人トーマツ」からの連絡により、富田氏と一緒にこの花を見に行った。花は、天空に届かんばかりに10m伸びている。この花が30年から50年に一回しか咲かないらしい。花の全体像は一見アオエのような多肉植物である。今年5月に、トーマツの社員がこの花壇の土壌を手入れしている。手入れは我々が作っているポーラス竹炭による土壌改良材を入れて土お越しをして周りにお花を植えた。その折、リュウゼンランにもポーラス竹炭を入れてもらっている。リュウゼンランの開花とポーラス竹炭の因果関係は分からないが何らかの作用があると思っている??花壇の中の他の花も元気そうなのでうれしい。



5月にポーラス竹炭を入れて土壌改良する



後ろのビルが東京ミッドタウン日比谷で地上100m以上である



左 世紀の植物あおのリュウゼンラン